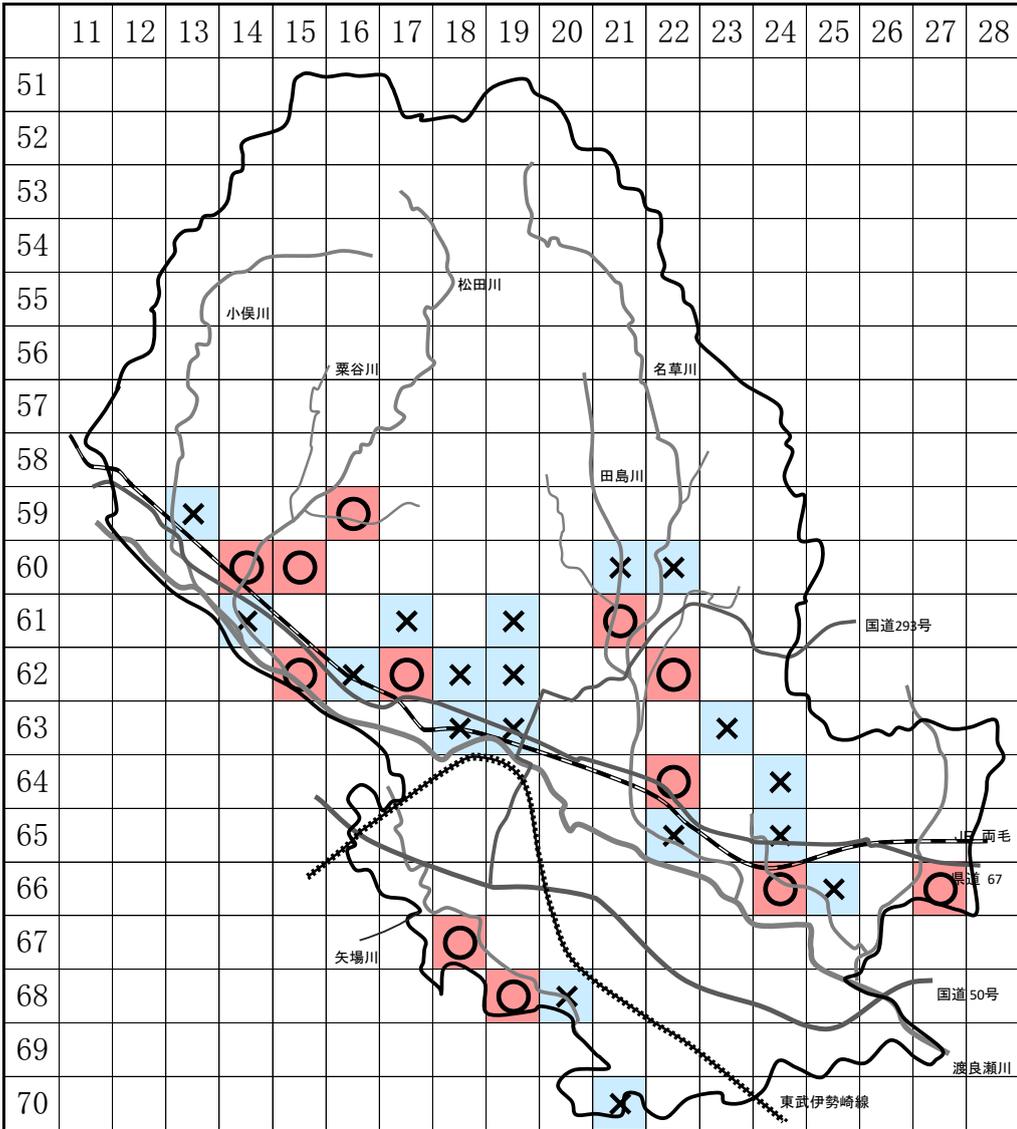
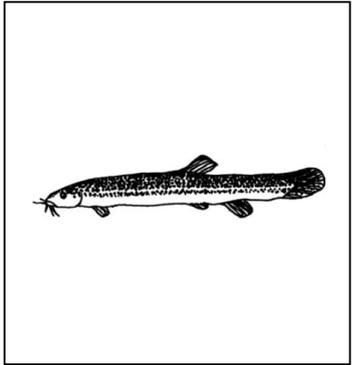


ど じ よ う	確認数： 12 メッシュ
	報告数： 30 メッシュ
	2021年度 19/32 2020年度 23/34

※過年度 確認数/報告数



しょうどうぶつや藻類などを食べる雑食性で、5月から7月が産卵期。雄のほうが雌よりやや小さく胸ビレが比較的長いようである。

えらでの呼吸の他に腸での呼吸もできるため、直接水の表面から空気を吸い込むようすがみられる。さらに、皮膚でも呼吸できるため水がない渇水期には、泥の中で過ごす。

かんさつてきき
観察適期
4月～10月

- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

活動が厳しい中で、確認メッシュの割合が約40%と、それぞれのレポーターの皆さんが工夫して観察されているように思います。ここ数年市内の主だった河川を中心に、水田地帯の小川、用水路に生息している様子がうかがえます。渓流域では、シマドジョウなどが見られる可能性もあるため、体色の違いにも注意して探してみてください。

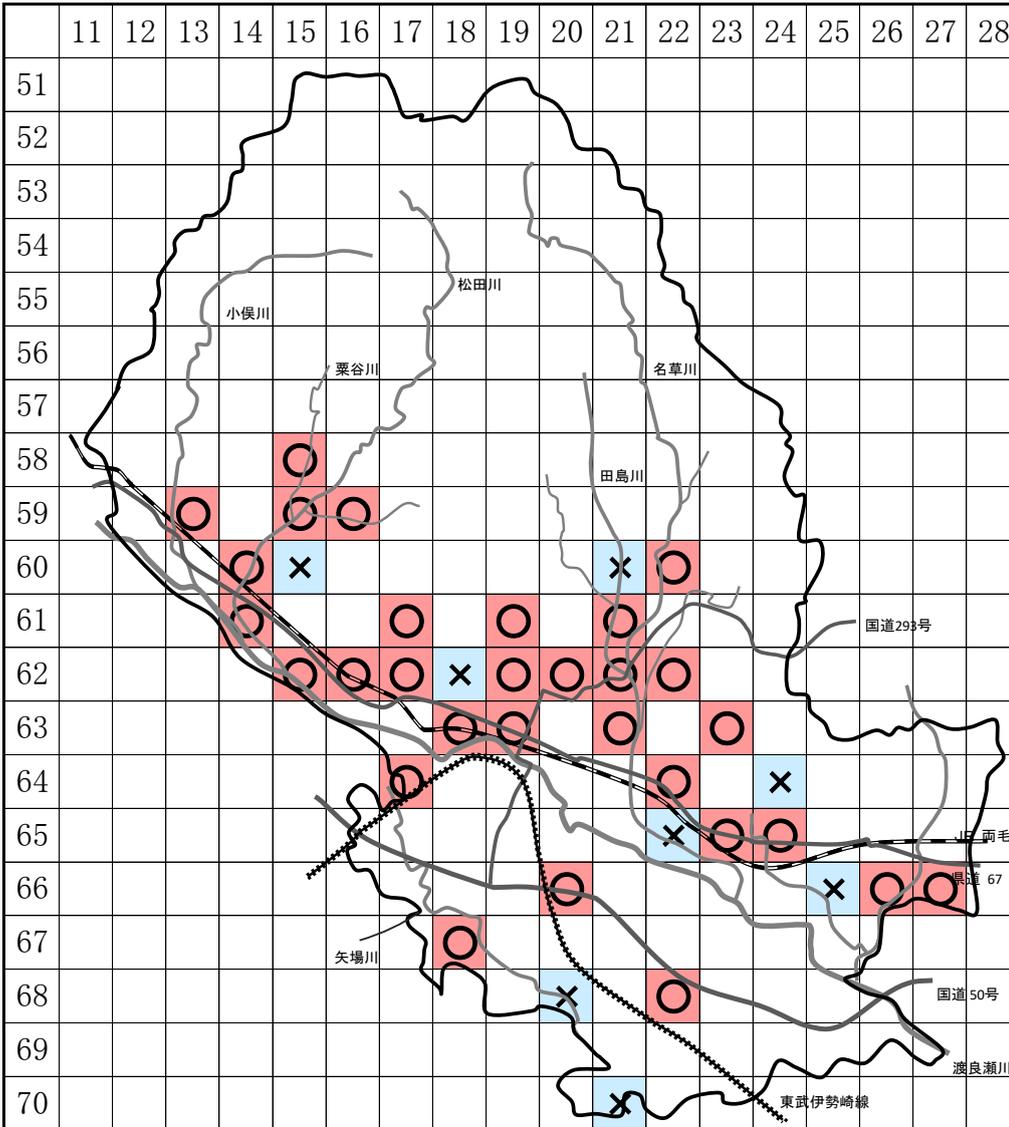
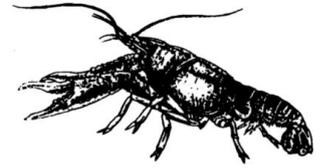
アメリカザリガニ

確認数： 30 メッシュ

報告数： 38 メッシュ

2021年度 33/40 2020年度 37/43

※過年度 確認数/報告数



昭和のはじめ、食用ガエルのえさとして輸入され全国に広まった。いわゆる“帰化動物”の代表。（ただザリガニという日本特産の種類で、アメリカザリガニよりやや小さい。北海道・東北北部の水のきれいな河川・湖沼にすむ。）

2023年6月1日から特定外来生物に指定。

観察適期
5月～10月

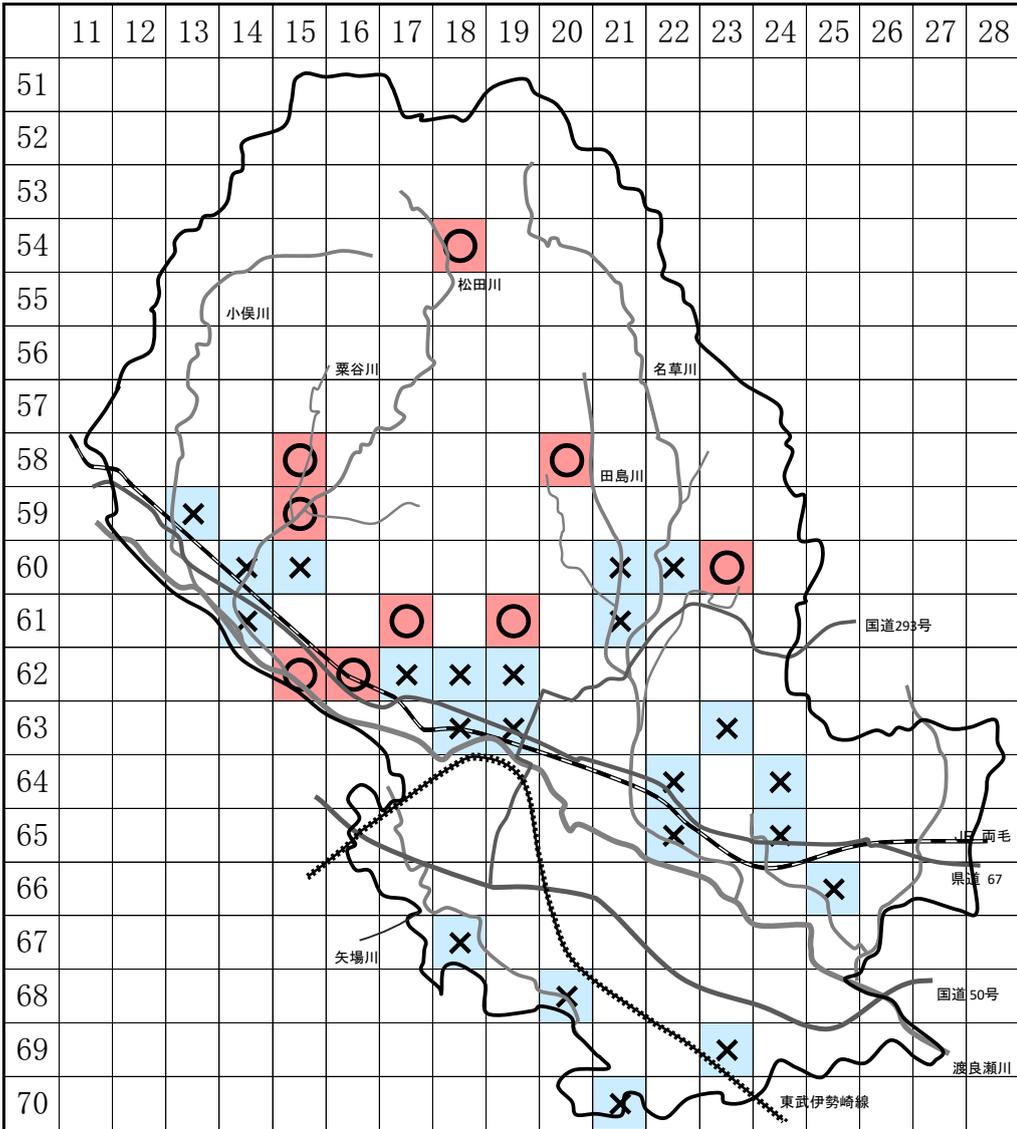
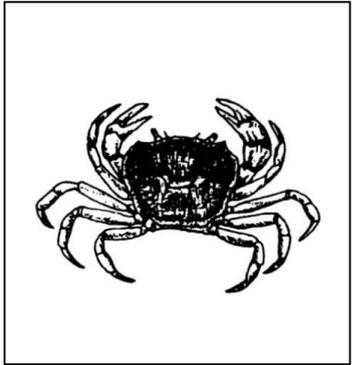
- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

調査報告数に対して出現率が引き続き高い結果が出ています。大きな生息域の変化はないようです。発見報告がなかった御厨地区と群馬県との県境方面は、注目して観察していただきたいです。1年間に数回観察していただくと、様々な発見があるように思います。

サ ワ ガ ニ	確認数： 9 メッシュ
	報告数： 31 メッシュ
	2021年度 11/31 2020年度 12/27

※過年度 確認数/報告数



日本ではただ一種の淡水産のおなじみのカニである。水のきれいな小川や山地の溪流に見られる。甲の色は茶褐色、うす青色、うす黄色などの変化がある。近年、水の汚れが進み、次第に生息場所がせばめられてきている。

かんさつできき
観察適期
5月～10月

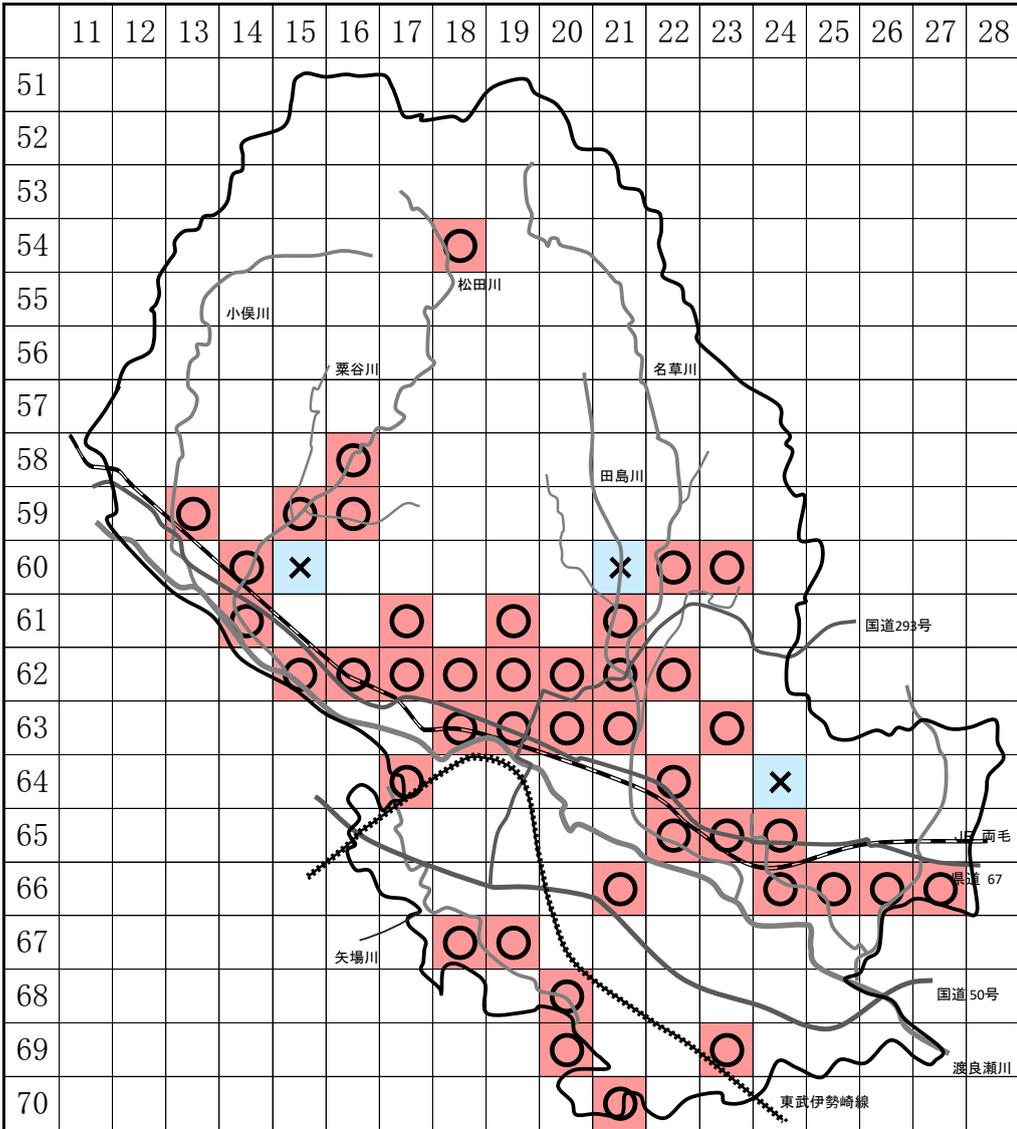
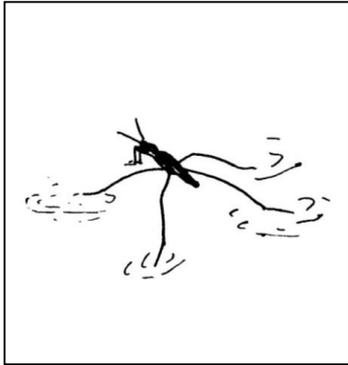
- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

ここ数年、生息域に大きな変化がないように思われます。各河川の上流域で、継続して生息が確認されているようであるが、生息地域が限られてきている様子が見え始めてきたと思います。

ア メ ン ボ	確認数： 41 メッシュ
	報告数： 44 メッシュ
	2021年度 43/44 2020年度 53/57

※過年度 確認数/報告数



ながあし すいめん
長い足で水面をスイ
かっそう
スイと滑走するおなじ
みんちゅう
みの昆虫で、あめのよ
あま
うな甘いにおいを持つ
も
ている。いけ めま かわ
ふつう み こんちゅう
普通に見られる昆虫で
ある。

かんさつ てきき
観察適期
がつ がつ
5月～9月

- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

あいかわ かわ
相変わらず、しゅつげんりつ ひじょう たか
出現率が非常に高く、かんさつ
観察するときに はっけん
発見しやすい生物であることがわかりま
す。へいち さんかんぶ すいでんちたい ちゅうしん ひろ
平地でも山間部でも水田地帯を中心に広く、かず おお せいそく
数も多く生息している様子が、はっきりわかり
ます。

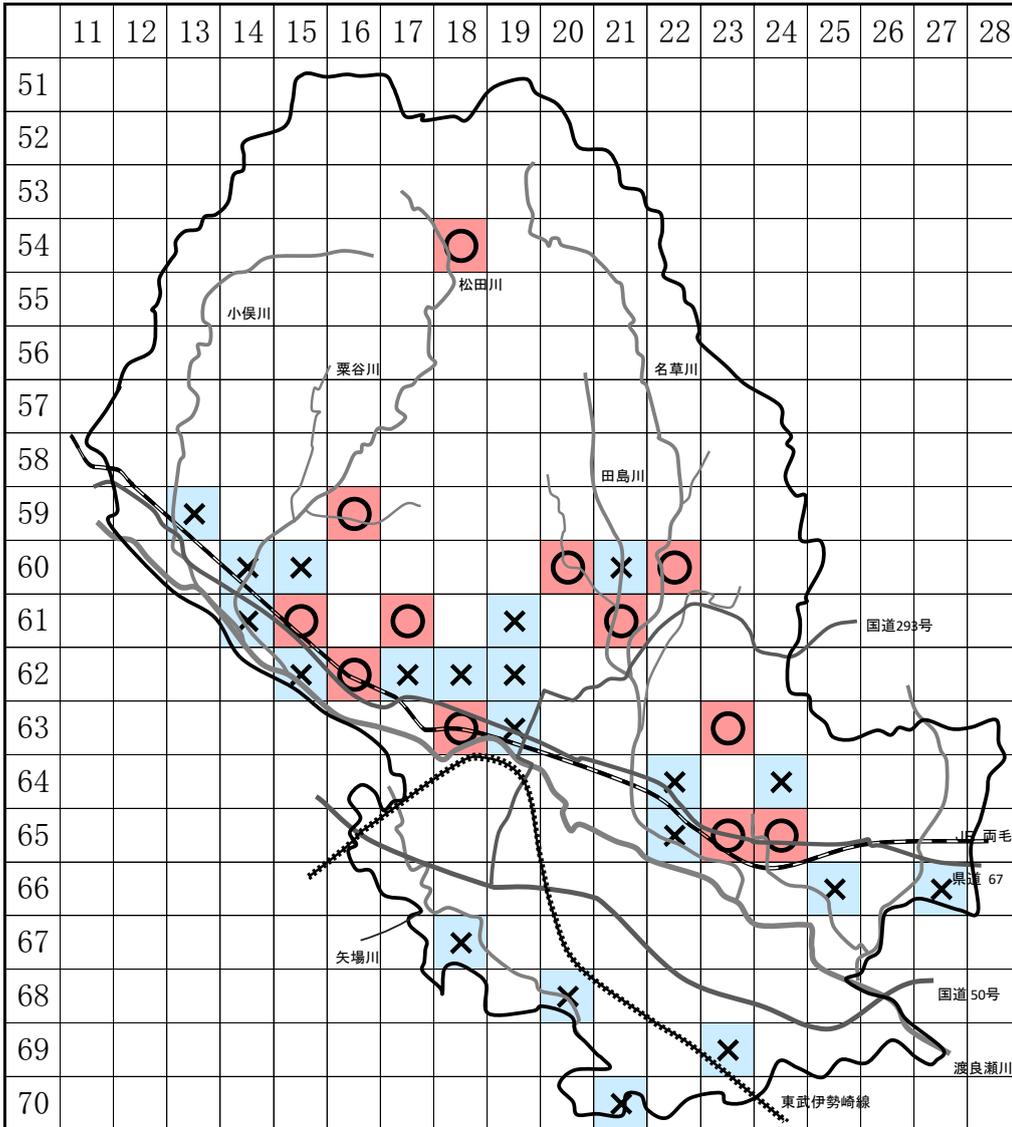
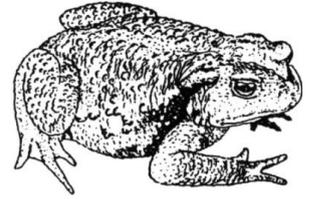
アズマヒキガエル

確認数： 12 メッシュ

報告数： 32 メッシュ

2021年度 10/29 2020年度 17/27

※過年度 確認数/報告数



ふつうガマガエルとよんでいる。平地や山地に見られ、人家の庭などにも現れるが、最近は少なくなっている。産卵期以外は水には入ることはほとんどない。河や池の周囲のくぼみや落ち葉の下などにかくれている。また夜行性のため、あまり人目につかない。

かんさつてきき
観察適期
がつ さんらんき
3月 産卵期
がつ がつ
6月～8月

- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

依然として生育場所は限られてきているように思われますが、山ぎわ周辺を中心に生息している様子があります。今年度は、河南地域で発見報告がありませんでした。発見されているメッシュについて、継続して見守ってまいります。

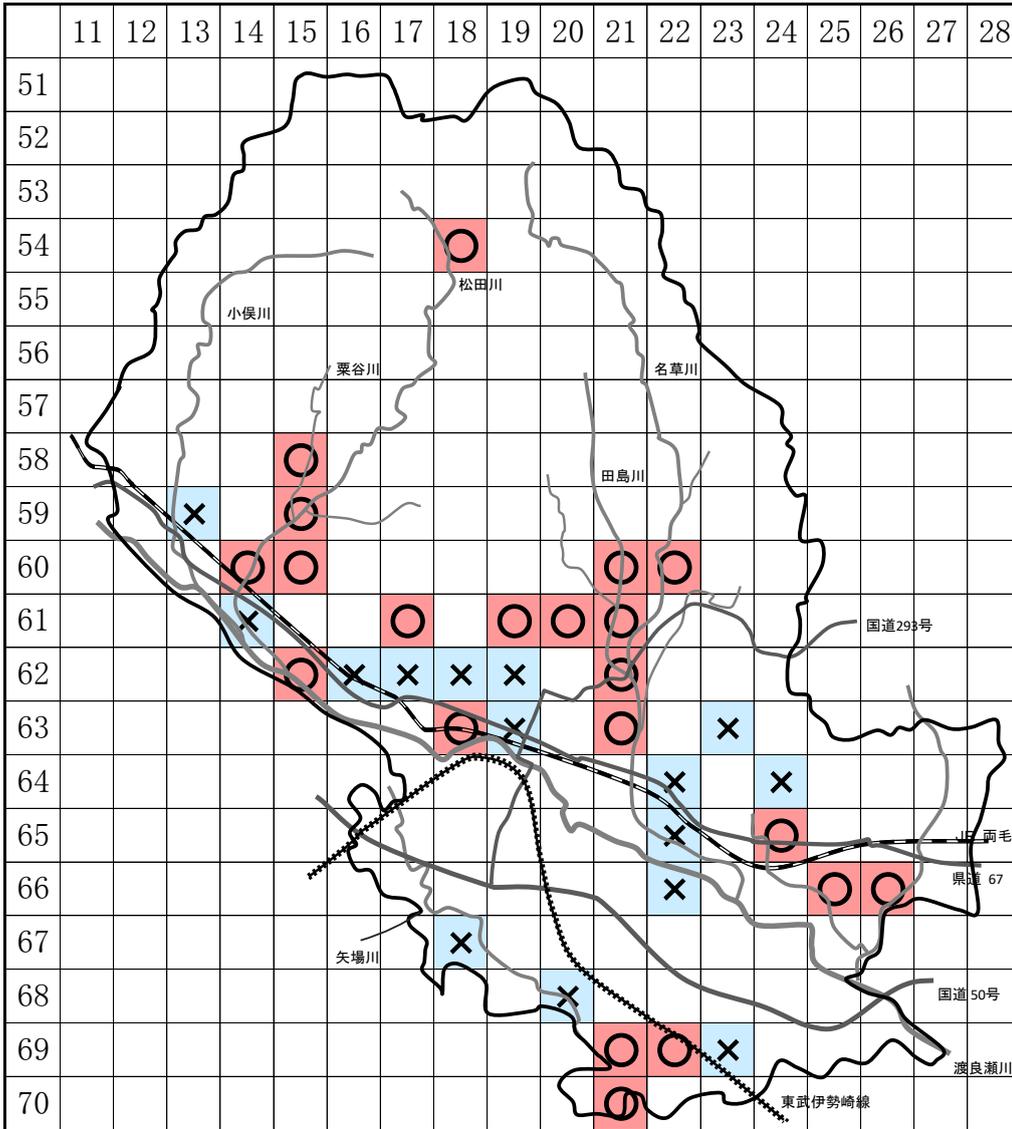
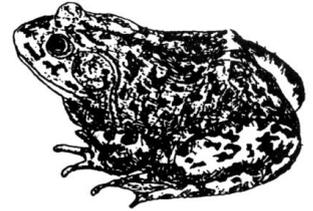
ウシガエル (食用ガエル)

確認数： 21 メッシュ

報告数： 36 メッシュ

2021年度 21/34 2020年度 22/34

※過年度 確認数/報告数



食用のため北アメリカから1919年に輸入され日本各地に広がった。平地の池や、幅広い溝や小川など水量の多い場所にすみ、夜間になるとウシのような大きな声で鳴く。行動はすばやい。

観察適期
6月～8月

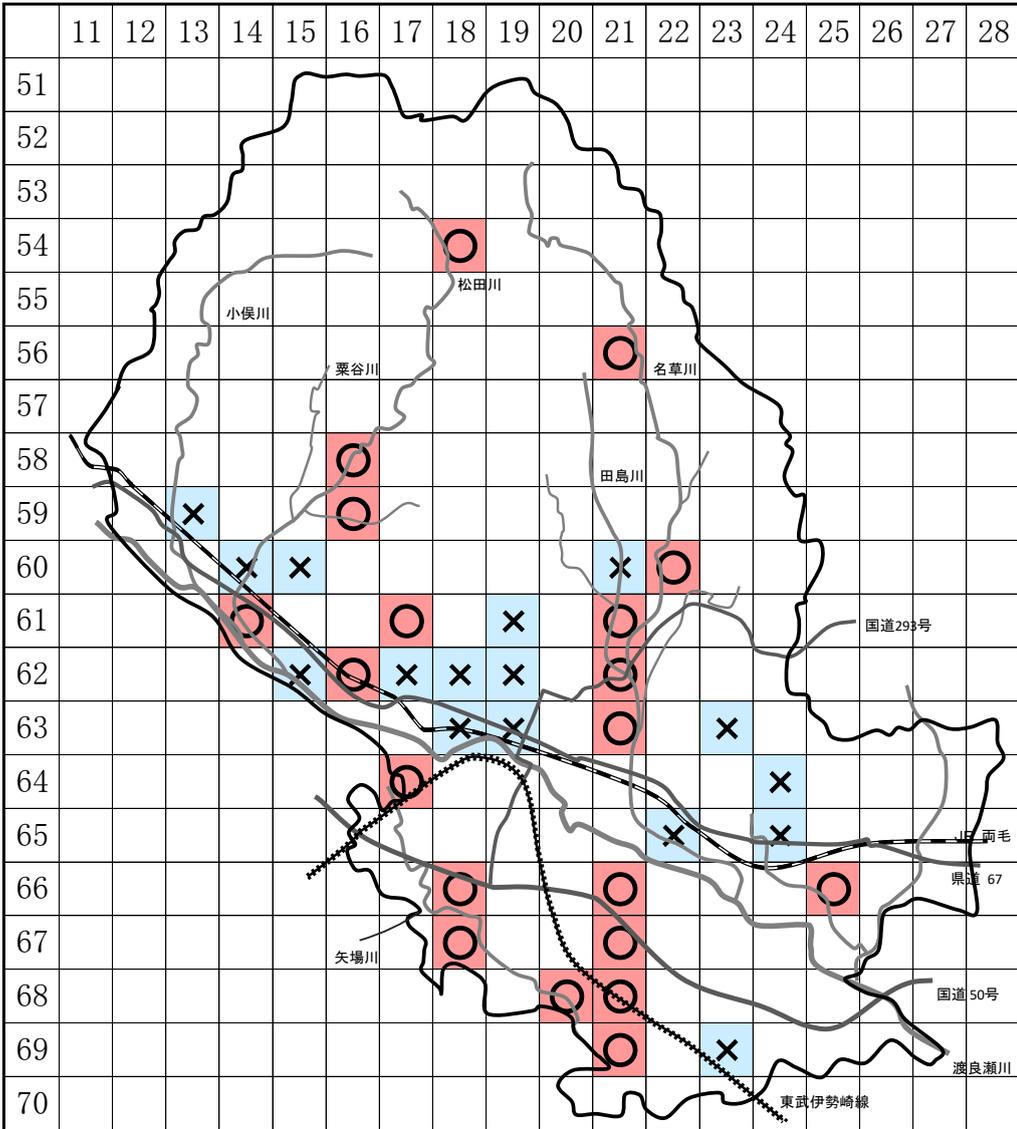
- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

市内の主だった河川の中・下流域で確認されている様子です。生息数の減少等心配する声もあつたが、生息に都合の良い環境を見つけて、子孫を残し住み続けている様子が見られます。松田川など上流域でも発見されており、生息域が広がっている可能性があります。

トウキョウダルマガエル	確認数： 20 メッシュ
	報告数： 36 メッシュ
	2021年度 19/30 2020年度 20/30

※過年度 確認数/報告数



この^{あた}りではトノサマガエルと言っているが、トノサマガエルは^{かんとう}関東にはいない。体長50～60mmぐらいで、トノサマガエルに比べてやや^{ちい}小さく、^{たいけい}体形は^{ふと}太めである。口先から^{くちさき}後^{こう}方にかけて^{はいかつよく}灰褐色の^じ地^{いろ}色に、一部または全部が^{みどりいろ}緑色をしている。^{ほんもん}斑紋は^{くろかつしよく}黒褐色、^{えんけい}ほぼ^{かす}円形で^{すく}数が少ない。

かんさつてきき
観察適期
がつ がつ
6月～9月

- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

今年度も^{しゅつげんりつやく}出現率約55%となっており、^{しな}市内の^{こうはんい}広範囲で^{せいそく}生息が^{かくにん}確認できました。^{やまあい}山間の^{すいでんとう}水田等にも見られる様子であり、^{りょうせいらい}両生類にとって^す住みやすい^{ばしょ}場所は^{おお}まだまだ多いと思われま

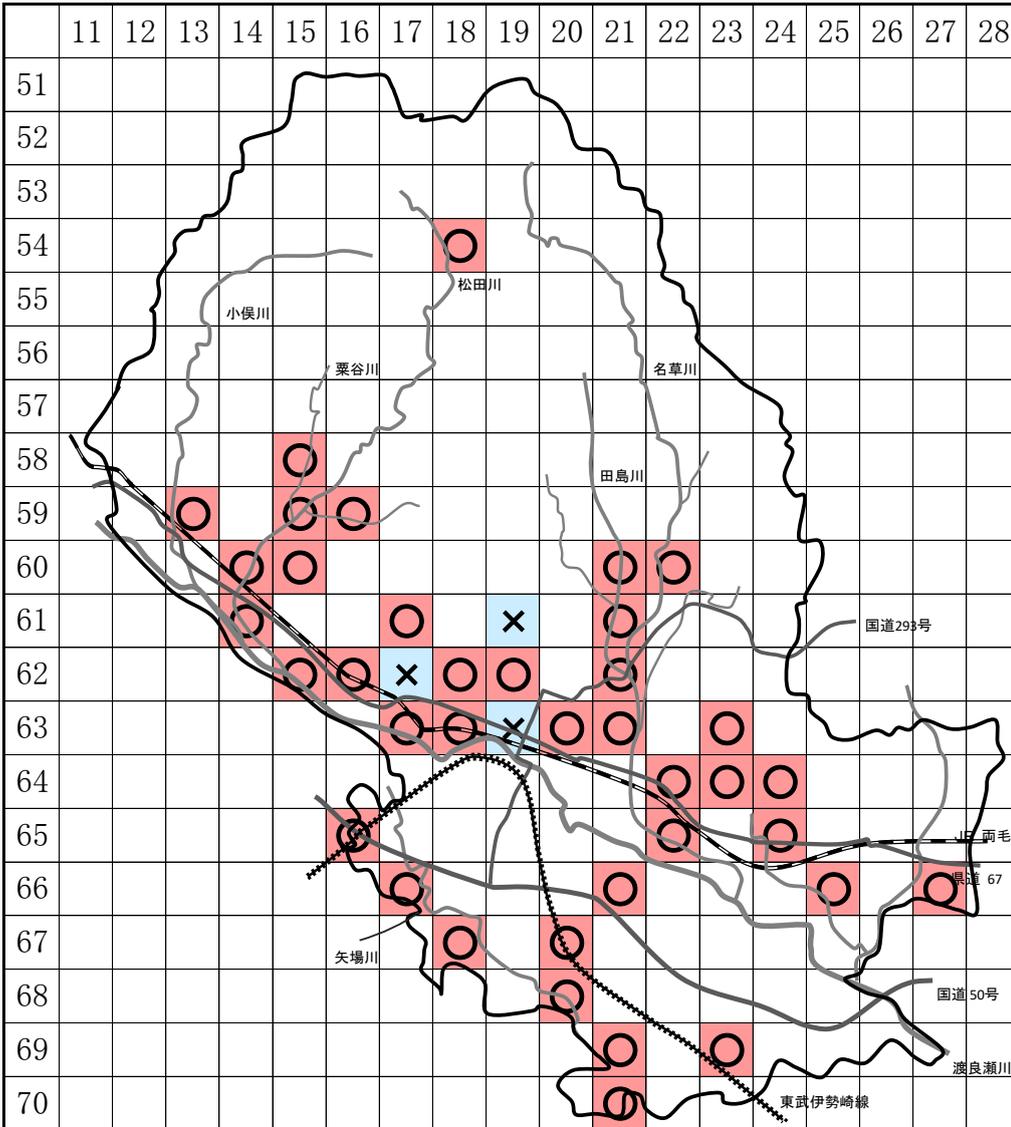
ニホンアマガエル (アマガエル)

確認数： 38 メッシュ

報告数： 41 メッシュ

2021年度 36/42 2020年度 41/44

※過年度 確認数/報告数



人家の植え込みや、
人家に近い低木、草む
らにすむ。雨が近づく
と、木や草の葉の上で
さかんに鳴く。指の先
の吸盤や緑色の体色は
樹上生活に適してい

る。
周囲のものにあわせ
て体色を変化させる。
秋以降になると土の中
や石垣のすき間で冬眠
する。

かんさつてきき
観察適期
がつ 5月～10月

- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

山間部も含め、市内全体に広く分布している様子には変わりはないと思われま。広い範囲に発見されてい
るが、感想を見せていただき、ヌマガエルとの生息場所を巡る競争がレポーターの方々にもはっきりわかる
ようになってきています。個体数は減っている可能性が高いです。